

ノーリフティング 浸透への取り組み

～職員も利用者様も笑顔になれるように～

介護老人保健施設フラワーコート江南

【はじめに】

当施設がノーリフティングを導入し約10年が経過した。

「現状」

- ・ 腰痛の訴えが聞かれる
- ・ 各職員の習熟度が曖昧
- ・ ノーリフティングに対する意識はある



**導入後も職員から腰痛の訴えがあり、今一度
取り組み方を見直す必要があった。**

【調査】

- ・ 課題を把握するため、ノーリフトティンキング意識調査を「選択式・記述式アンケート用紙※」を用いて実施

「対象」：フロア職員 68名

(介護職 46名、看護職 22名)

※アンケート用紙

「ノーリフティングについてのアンケート」

所属フロア

氏名(職種) ()

①ノーリフティングを意識して業務を行えていますか？

できている ・ 概ねできている ・ あまりできていない ・ できていない

②「できている・概ね出来ている」とお答えの方にお聞きします。どのような意識をされていますか？当てはまるものにチェックをしてください。(複数回答可)

- 抱えない、ねじらないなどのノーリフティングの定義を意識している。
- スライディングボードやフレキシなど正しく使用することができている。
- ベッド上での移動は、シートを活用している。
- ベッドの高さ調整を毎回行っている。
- 業務の際はランジ姿勢で行う事ができている。

③「あまりできていない・できていない」とお答えの方にお聞きします。意識できない理由にチェックを入れてください。(複数回答可)

- 時間的余裕がないため。
- 使用したい福祉用具が少ないため。
- 体力的に自信があるため。
- ノーリフティングポリシーが何なのかが分からない。

④職員全員にお聞きします。ノーリフティングに取り組み 10 年ほどの期間が経過しました。日々の業務で、体(腰)に負担があると思われる介助はどれですか？上位3位を選択し、()内に数字を入れてください。

- | | |
|------------------------|-----------------|
| () トイレでの立位保持介助 | () 入浴時の更衣介助 |
| () トイレでの移乗介助 | () 入浴時の立位保持介助 |
| () トイレでの下衣の上げ下げ介助 | () 入浴時の移乗介助 |
| () ベッド上でのオムツ交換 | () 入浴時の洗体介助 |
| () ベッド⇄車椅子の移乗介助(一人介助) | () ゴミ捨て |
| () ベッド⇄車椅子の移乗介助(二人介助) | () オムツの段ボールの運搬 |

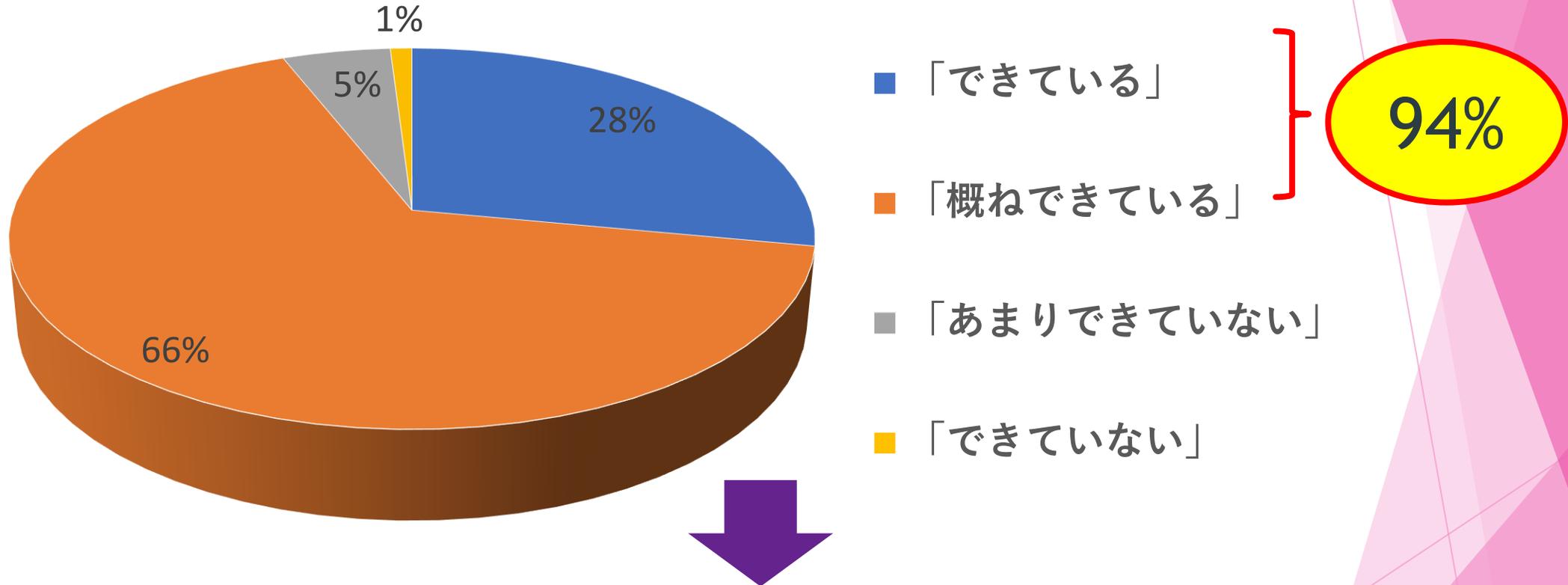
⑤体の負担軽減につながるものとして提案したい内容や具体的要望をお聞かせください。()内は具体的な提案等あればお書きください。

- 福祉用具の充実()
- 新たな福祉用具の導入()
- 定期的な研修会の実施()
- 定期的なりハビリ職員のラウンド()
- 腰痛ベルトの支給()
- その他()

お忙しい時間に、ご協力ありがとうございました。

【調査結果と考察】

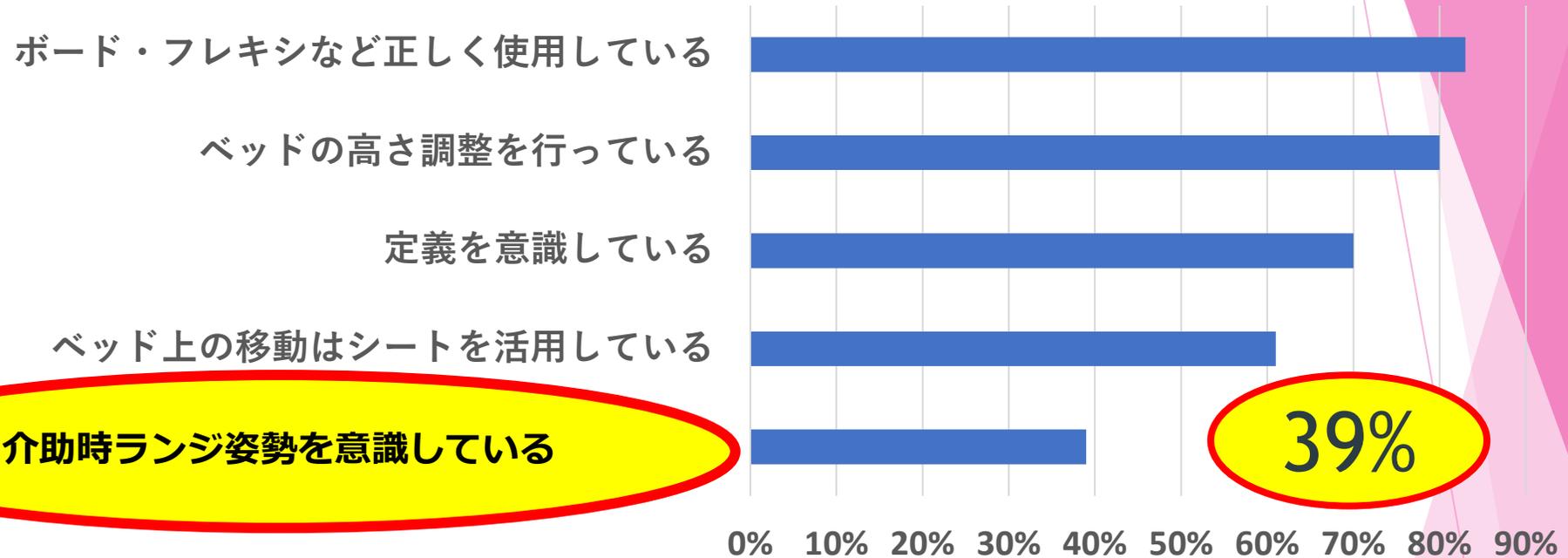
質問1 「ノーリフティングを意識して業務を行えていますか」



毎年施設内研修でノーリフティング研修を実施しているため、意識自体は高い。

【調査結果と考察】

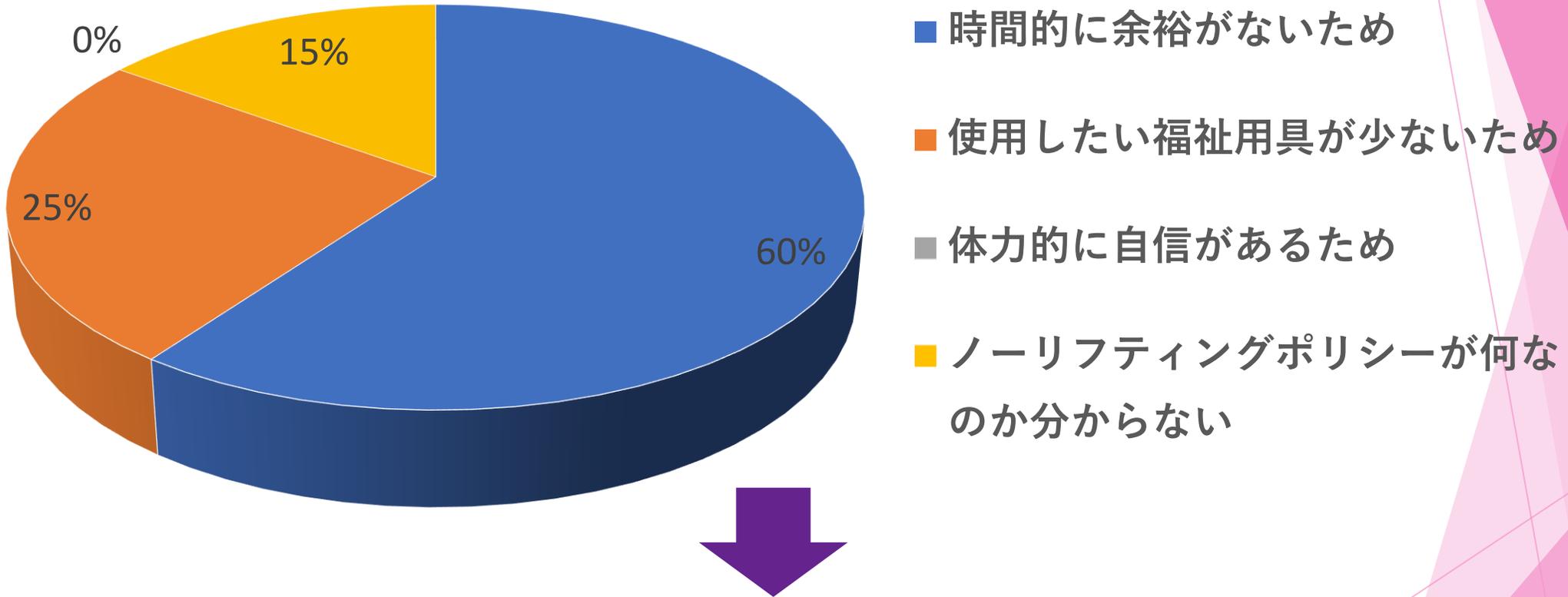
質問2 「どのような意識をされていますか」



定義や福祉用具を使用することへ意識は強いが、介助時の姿勢（ランジ姿勢）までの意識は、39%と低かった。

【調査結果と考察】

質問3 「意識できない理由」 (対象回答者6名)

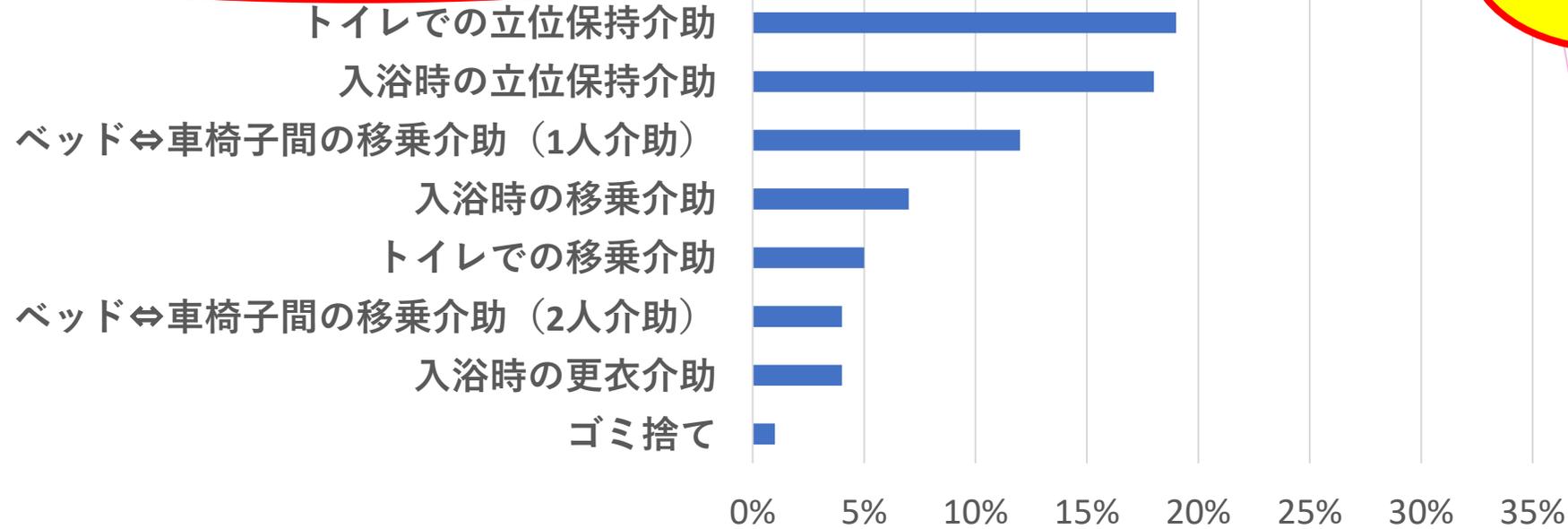


質問3の回答者全員が中途採用者であり、入社時期によっては研修を受講できない、もしくは、十分に研修の時間をとることができていない。

【調査結果と考察】

質問4 「日々の業務で体に負担がある介助は」

☆ベッド上でのオムツ交換

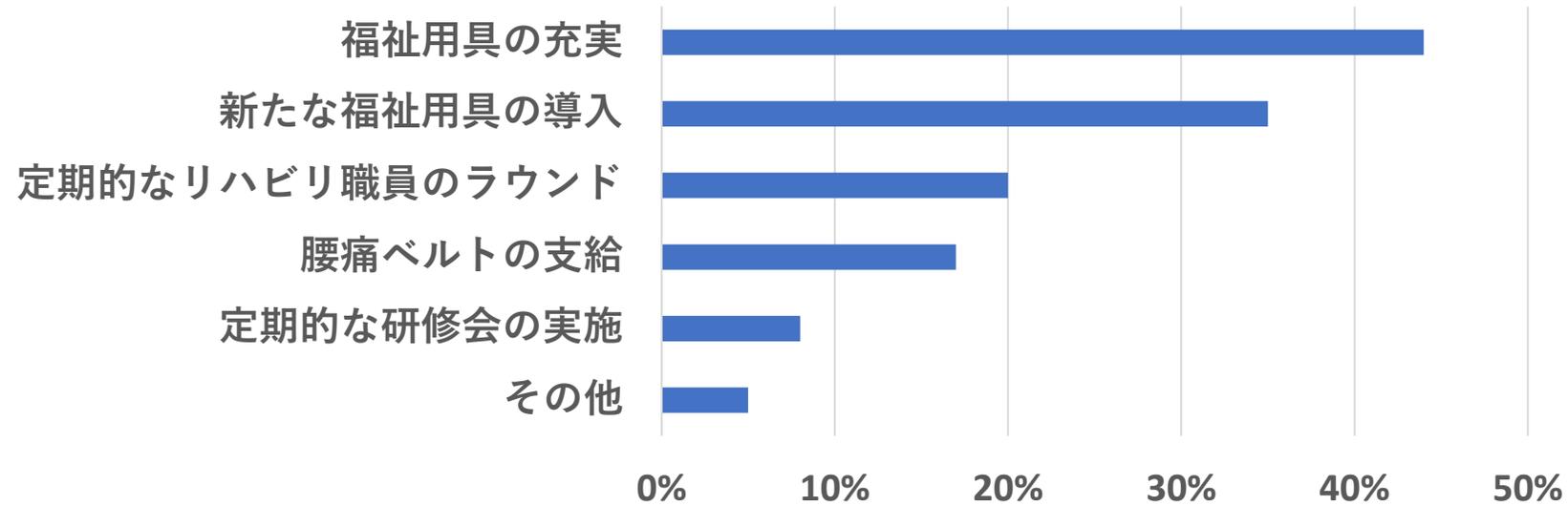


30%

ベッド上でのオムツ交換業務が30%と一番多い。要因として、同一姿勢で行う業務であり、ランジ姿勢への意識が薄れる事で腰や肩への負担が強くなること、また、ベッドの高さが最適でないため身体的に負担が増加していると考えられる。

【調査結果と考察】

質問5 「体の負担軽減につながる提案」



福祉用具の充実が一番多く、次いで、新たな福祉用具の導入の提案が多かった。

【調査結果と考察】

質問5「具体的要望」

- ▶ ・入浴で使用できる福祉用具が欲しい
- ▶ ・フレキシやスライディングボード、スライディングシート
トの数を増やしてほしい
- ▶ ・トイレ時の立位保持の福祉用具の数を増やして欲しい
- ▶ ・跳ね上げ式車椅子の数を増やして欲しい
- ▶ ・立ち上がり介助の福祉用具が欲しい
- ▶ ・リハビリ職員から介助のコツを教えて欲しい
- ▶ ・手軽に装着できる腰痛ベルトが欲しい

【調査結果と考察を踏まえて】

ノーリフティングを意識して業務を行っている職員は93%



ランジ姿勢を意識して業務を行っている職員は39%



意識を高める事が出来たら負担が減るのでは・・・??

負担と感じる業務1位はベッド上でのオムツ交換

【結果を踏まえての取り組み】

期間：2021年9月6日～2021年9月27日（3週間）

対象：フロア職員（介護職、看護職）68名

方法：少人数制でベッドの高さ調整、ランジ姿勢の再研修
（フロア職員10名に対してリハビリ職員1名）

【結果を踏まえての取り組み】

オムツ交換時のベスト
なベッドの高さ…



ランジ姿勢とは…



【再調査】

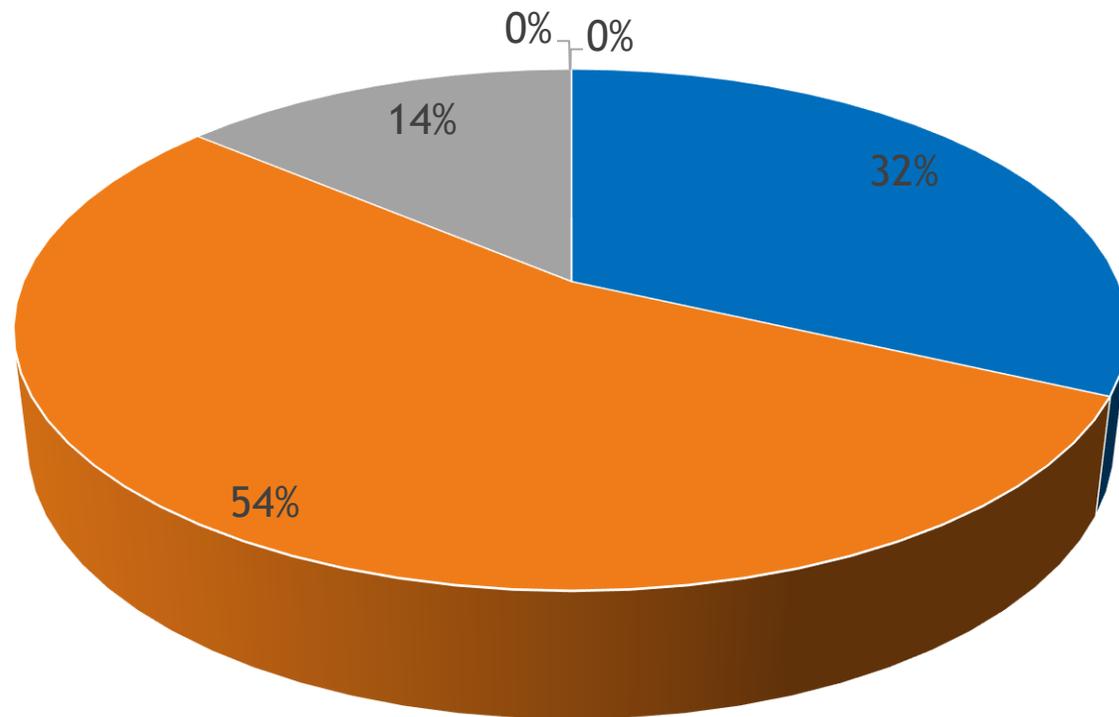
- ▶ ・研修後のオムツ交換の負担の感じ方についてのアンケート調査を実施

「対象」：フロア職員 68名

(介護職 46名、看護職 22名)

【再調査の結果】

研修後のオムツ交換業務について変化を感じますか？



- 変化を感じる
- 概ね変化を感じる
- 若干変化を感じる
- あまり変化を感じない
- 変化を感じない

100%

【まとめ】

- ①今回、オムツ交換に焦点を当てて、取り組みを行ったが、意識変化によって、負担軽減が図れる事が分かった。
- ②フロア職員と情報共有を行いながら、オムツ交換の時間帯や人数の分散等検討し、業務改善を図っていく。
- ③他業務の負担軽減も行えるよう、今後も、リハビリ職員がノーリフティングの中心となり、研修の実施を行っていき、福祉用具の充実や新たな福祉用具導入の実践を進めていく。

ご清聴ありがとうございました